なぞとき本

ホシモノガタリ

ho shi mono gatari

シラキ　カヨコ
Shiraki Kayoko

イトウ　キミ
Itou Kimi

なぞとき本

ホシ物語

ho shi mono gatari

シラキ　カヨコ
Shiraki Kayoko

イトウ　キミ
Itou Kimi

出版にあたって

この電子版「ホシ物語」は、２００１年９月に発行された書籍版「ホシ物語」を、内容を一部変更して電子化したものです。チャネリングが始まった初期の頃の情報をまとめているため、現在のチャネリング内容とは異なる部分があります。この本ではイシカミのお腹に人間を入れてきたとありますが、さまざまな形のイシカミの分身を地球上で作り出し、そこから現在の人間の形を他の星たちと協力して作った、ということが分かりました。初期の頃は人型の設計図のようなものを持ってきたと解釈していました。最新のチャネリング内容につきましては、弊社発行の本やホームページをご覧下さい。

一【はじめに】

これは大昔のことを星さんたちが教えてくれた不思議な物語です。

大昔に「射手座」という星の宇宙人が地球に降りてきました。
その時、信じられないことにお腹に人間を入れて降りてきたのです。
その宇宙人はとても大きく山の様でした。
そして小さな人間が地球で生きていくために色々と助けてくれました。

「御在所岳」という山は「射手座の女王さま」という、いわば宇宙人の身体なのです。
射手座の女王さまは「おばれ石」など変わった石を作って、人間が自分のことに気づいてくれるのを待っていました。
二枚の分厚い板を重ねたような「おばれ石」は口のつもりで作りました。

ふもとから見ると、まるで山の小さい口に見えるのです。
女王さまはずっと待っていましたが、今ようやく人間とお話ができるようになったのです。

二【星の誕生】

昔、昔、大昔の物語です。
宇宙はまっ暗やみで、その中の「宇宙の神さま」はたった一人でした。
さみしくて誰かお話ができるモノが欲しいと思いました。
それでうず巻きを作りながら、一生けんめい思っていたら光ができました。
それは美しいもので、光は「星さん」になりました。
一番最初の星さんが射手座でした。
それからも宇宙の神さまは次々と星さんを作り、順番に円を描いて置いていきました。
星さんたちは想像が出来ない位の大きな円の宇宙になりました。
そしてその円の外側に太陽系の星さんがいました。
おなじみの太陽さん、水星さん、金星さん、地球さん、火星さん、木星さん、土星さん、

天王星さん、海王星さん、そして冥王星さんです。
太陽系の星さんたちは兄弟姉妹の中でも、特に仲良しでした。
星さんたちはただの岩だけではなく、「思い＝意識」を持ちました。
それぞれの星さんには「同じ思い」の仲間が集まって、またたいて合図をしているのです。
まるで姿の見えない宇宙人が住んでいるのと同じなのですね。
そして昼も夜も、星さんたちはみんながしていることを見ているのです。

三【地球さん】

宇宙の円の外側すなわち遅くに生れた星さんたちの中に、子供の星「地球さん」がありました。

地球さんは宇宙から見たら、青いダイヤモンドのようでとてもきれいでした。

それは地球さんが水でおおわれているからです。

水は友だちの水星さんが地球さんにプレゼントしてくれたのです。

木は木星さん、土は土星さんがそれぞれ地球さんにプレゼントしてくれました。

それで地球さんは宇宙でただ一つ、「生き物」が住める星になりました。

星さんたちは強く「思う」ことで、宇宙の中の小さな小さな「原子」たちに号令をかけて集まってもらい、形にして「生き物」を作りました。

そして星さんたちは地球さんにいろいろな形の「生き物」を送り込みました。

はじめは小さな生き物でしたが、どんどん大きな動物を作りました。
やがて地球さんを思いどおりにしたいと考える星さんと、遠くから見守ろうとする射手座や太陽系、オリオンなどの星さんに分かれました。
二つに分かれた星さんたちで大きな戦いになりました。
たくさんの星さんたちが傷つき、ばらばらになった星さんたちの身体が「天の川」となりました。
その戦いは、地球さんを思いどおりにしようとする星さんたちが勝ちました。
この様に他のものを思いどおりにしようと言うモノは「オニ」と呼ばれました。
オニの星さんは地球の近くの大きな星で、とても力がありました。
オニの星さんたちは、ただ生きているだけの動物・恐竜を地球に送り込み、争いばかりさせてゲームのように楽しんでいました。
遠くにいる宇宙の神さまはそれを見て悲しくなりました。

そこで宇宙の神さまはご自分の分身である「星の宮さま」に頼んで、いったん地球さんの掃除をしてもらうことにしました。

何で掃除をしたかって？

それはたくさんの「稲光」で一気に燃やして掃除をしたのです。

それで争いばかりしていた恐竜は全滅してしまいました。

宇宙の神さまは「これからは家族や友だちを大切にする優しい動物を作るように」と星さんに伝えました。

星の宮さまは掃除がすんだあと、日本の「星原」というところで眠っていました。

その頃はまだ人間は地球さんにいなかったので、人間の誰一人そのことを知りませんでした。

四【射手座の星】

星の中で一番の年上の射手座も地球さんを見守ろうとする星さんたちの仲間でした。
星さんたちの戦いの最中、射手座の王さまが行方不明になりました。
それで射手座の女王さまは星の宮さまに王さまを見つけてもらおうと思い、星の宮さまがいる地球さんに降りようと決心しました。
いっぽう星さんたちは、動物たちが自分たちのことをわかってくれないので、どうしたらわかってくれるかなと思っていました。
そこで自分たちの思っていることがわかる「人間」を作ろうと思いました。
星さんたちは形や働きを相談してそれを一生けんめい「思う」ことで「人間」を作りました。
そしてその人間をどうやって地球さんに送りこもうかと思っていたところでした。
ちょうど女王さまが地球さんに降りることになり、一緒に人間を連れていってもらうこと

にしました。

女王さまは油で作られた丸いボールに入って、お腹に人間を入れてカラスさんといっしょにやってきました。

初めて地球に降りるので、カラスさんが偵察をしてくれることになったのです。

賢いカラスさんなのですが、きれいな地球さんを見て早く降りすぎて黒こげになってしまいました。

でも女王さまがすぐに生き返らせてくれました。

女王さまはつやつやの柿色のまん丸で、まるで太陽が降りてきたようでした。

カラスさんに安全を確かめてもらって、女王さまは日本の岐阜と言う所に降りました。

女王さまはまずそこに人間のために三本の川を作りました。

三本という意味は「人間は肉体だけではなく、見えない他の二つの事が大切ですよ。」と言う事を知らせるためでした。

しばらくして女王さまは身体が地面にひっついたまま動けない事に気がつきました。
年下のやんちゃなオニの星さんたちがいじわるをして、地球さんに引っぱるように命令していたからでした。
女王さまの身体はとても柔らかく、とろとろのおもちのようでしたので、下に引っぱられてぽたぽたと落ちました。
その落ちた物を「落とし物」と呼びました。
女王さまは身体がくずれおちるのと、動けないことでとても悲しくなりました。
最初の落とし物を見て女王さまは悲しみがいっぱいになり、その落とし物は一気に石になってしまいました。
その石が日本一古いと言われる石なのです。
それから女王さまは海の中に入ろうと思い動いたのですが、悲しい事に転んでしまいました。

仕方がないので、そこで横になりました。
そこが御在所岳でした。（「在所」とは本当の家という意味です）
そのころ星の宮さまは寝ていたので、女王さまは星の宮さまがどこにいるかわかりませんでした。
どうしたらいいかわからなくて、いっぱい泣きました。
それでその涙が川となって「御在所岳」のふもとを流れていきました。
「御在所岳」の川の水がたくさんなのは、女王さまが泣いたからなのですね。
また、射手座の皆は女王さまが戻れない事がわかったので、女王さまを助けに地球に移住しようと考えました。
それで女王さまと同じようにお腹に人間を入れて、次々と地球のあらゆる所へ降りてきました。
この射手座から降りてきた宇宙人たちは、「イシカミさま」と呼ばれました。

地球に降りたイシカミさんたちは、女王さまの体験した悲しい話をテレパシーで聞きました。

そして自分たちも女王さまと同じように動けず、身体がどんどんくずれていったので、とても驚きました。

皆はテレパシーで相談して、地球にも「ピラミッド」を作って、宇宙からのエネルギーをもらおうと決めました。

射手座ではピラミッドから宇宙のエネルギーをもらっていたからでした。

それで射手座の人（＝イシカミさんたち）はピラミッドを簡単に作ることができたのです。

また、地球さんのひっぱる力を、ピラミッドを使って宇宙に放り出そうとしたのです。

五【日本のイシカミさま】

お腹の中にいれてきた人間はとても元気でした。
そして小さな可愛い人間を見て、女王さまは「しっかりして、助けなくては」と思いました。
それで自分のかわりに動ける子供を作ろうと思いました。
くずれた自分の身体の「落とし物」から、連れてきた人間の身体をまねて作ってみました。
星さんたちの助けと女王さまが強く「思う」ことで、子供は山のように大きな人間になりました。
その子供も「イシカミさま」と呼ばれました。
子供たちはみな女王さまから動きやすい身体に作ってもらい、生きていくための知恵を人間にテレパシーで教えました。
子供のイシカタ山（サナゲ山）さんとイシマキ山さんは協力して、川と川の間に堤防を作

リ、人間が住めるようにしました。それが「輪中」です。
人間はその中に家や畑をつくり、暮らすことができるようになりました。
またイシカタ山さんは小さな山を作り、その上に遠くの川にあるたくさんの小石を乗せておきました。
こうしておけば、どうして山の上に河原の石があるのか人間が考えて、自分たちの事を知ってくれるのではないかと思いました。
イシカタ山さんは柿や梨や桃などを、星さんの助けで人間に作ってあげました。
イシマキ山さんはアサリやサザエを、やはり星さんの助けで作り、その貝で海をきれいにしてもらおうと思いました。
勿論その貝を人間もおいしく食べることができるようにと作りました。
未来の見える四国のイシズチ山さんは将来ここにオニが渡ってくる事を知りました。
それで自分の身体が崩れてとても大変なのに、一生けんめい土を掘って瀬戸内海を作り、

オニが渡って来る所にはナルトの渦潮を作りました。
おいしいお魚もたくさんとれるように星さんに頼みました。
シラ山さん（フジ山）はお母さんが亡くなり、妹のハナちゃんの世話をするのに疲れていました。
それで友だちのアダタラ山さんに会いに歩いて北に向かいましたが、歩くのがたいへんでころびそうになり手をつきました。
手をついたところに海の水が入ってきて、そこが「ハマナ湖」になり、そこでうなぎがとれるようにしてくれました。
シラ山さんは地球さんに頼んで噴火してもらい、自分がピラミッドの役をする形になりました。
ハナちゃん（アオバ山さん）はお母さんが死んで泣いていたら、日本海の方から「こちらにいらっしゃい」と声が聞こえたので、そちらの方へと歩いていきました。

以前お母さんに「最後は自分の身体に土をかけるように」と言われていましたので、土をすくって海の近くへと持っていきました。
その土を取ったところが「ビワ湖」になり、ハナちゃんは海のそばのアオバ山になりました。
そして鯛やカレイを星さんの助けで作りました。
「ミツケ島」とは「イシカミさま、見っけ！」という意味ですね。
ミツケ島さんはお母さんに「人間のお手伝いをしてくださいね」と言われたので、自分の身体を「かまど」にするように人間に教えました。
「かまど」は少ない木でお料理をするのにとても便利なものです。
女王さまは他のイシカミさんたちにも子供を作るように伝えました。
女王さまの妹はイワキ山さんで、その子供がアダタラ山さん、アポイ山さんなどです。
北のイシカミさんたちは星さんの助けでりんごや昆布、ニシン、サケなどを作ってくれました。

また北の湖に「自分の姿に似たものを作って」と頼んで、星さんの助けでマリモを作ってもらいました。

アシガラ山さんもイシカミさんの子供で、人間はそのことを「金太郎」の物語にして言い伝えました。

イコマ山さん、アソ山さん、オオ島等の山もイシカミさんでした。

鏡もちはイシカミさんの姿を真似て作ったもので、お世話になったイシカミさんを思いだし、感謝をするためなのですね。

イシカミさんたちは太陽の光にあたると身体が乾いてひびがはいったので、夜だけ仕事をしたり動いたりしていました。

人間たちはいろいろ助けてもらったイシカミさんのために、大きな「ぞうり」や「ちょうちん」をお礼として作って、それをお祭りとして残しています。

「デエダラボッチ」のお話もイシカミさんのことですね。

サルカニ合戦の物語は、隠されたイシカミさんの事を民衆が言い伝えたものです。
カニ、米、怖、栗はイシカミさんが星さんの助けで作ってくれたもので、臼は米や麦を臼でひいて粉にして食べるようにイシカミさんが教えてくれたものです。
サルはオニ、蜂は民衆をあらわし、ウンチは肥やしにすると良いと、やはりイシカミさんが教えていました。
イシカミさんたちが死んだ後にイシカミさんの話をする事が禁じられたので、たとえ話にして語りつがれたのです。

六【アジアのイシカミさま】

ネパールはイシカミさんたちが降りてきた時は広い平野で、そこに降りたイシカミさんたちはとても働き者でした。

高い山の上に「ピラミッド」を作れば、よりたくさんの宇宙のエネルギーがもらえるのではないかと思いました。

たくさんのイシカミさんたちが力を合わせて、一生けんめい高い山を作り「エベレスト」と名付けました。

高い山を作ったので上の方に雪が積もり、その雪がとけて川となり、水が一年中流れるようになったので人間たちはとても助かりました。

それでチベットの人は大地に身体を投げだしてイシカミさんに感謝し、イシカミさんのエネルギーをもらおうと山に登るのですね。

中国に降りたイシカミさんたちは食べ物もなく、体も動かなかったのであまり高い山は作りませんでした。

とてもさみしかったので何か動物を作ろうと思い、そこには笹があったので笹を食べて生きていける、かわいいパンダを星さんの助けで作りました。

けれどイシカミさんたちのための食べ物はなく、子供は作らずに早くに死んでしまいました。

タイの山奥のイシカミさんは人間のためにお米を考えました。

そして他の国のイシカミさんたちにもテレパシーで教えてあげました。

タイのイシカミさんも身体がくずれて動けなかったので、「助けに来てほしい」と首を長くして待っていました。

それで一部の人間の首に金ぞくを巻いてもらい、首を長くしてもらいました。

それが首長族のご先祖ですね。

七【アメリカのイシカミさま】

南米のイシカミさんたちは、人間に星さんの助けでジャガイモなどを与えてあげました。また星から来たことを知らせるために、小石を宇宙のエネルギーで焼いて地面に絵を描きました。

そして人間を手の平にのせてその絵を見せてあげました。

それが「ナスカの地上絵」で、それを見た人間たちはイシカミさんの描いた絵をまねて、地面に絵を描きました。

それで同じ絵が地上のいくつかの場所にあるのですね。

この頃オニが世界中を支配していました。

南米のイシカミさんも隣の大陸（ムーノイア＝ムー大陸）が、オニの大蛇に支配されているのを見ました。

イシカミさんたちは人間との平和な国を守ろうとしました。
大蛇にばけたオニがせめてこないように、イシカミさんたちは海沿いに高い山を作りました。
高い山だったらオニの大蛇が登ってくることはできないだろうと考えたのです。
ところがオニは指導者の人間たちの心に入りこんで、とても高い山の上に町を作らせました。
そしてそこで暮らすように命令したのですが、人間たちが嫌がったため怒ったオニは人間たちを谷底につれてゆき死なせてしまいました。
それで高い山の上の町は、誰も住んでいない町になったのです。
中央アメリカのイシカミさんは少し遅れて地球に降りてきました。
そして仲間から教えられてピラミッドを作りました。
けれどもピラミッドの半分を作った時、オニがやってきてイシカミさんは殺されてしまい

ました。

オニたちは人間に命令して、階段をつけたピラミッドを完成させました。

そしてピラミッドに太陽の光が当たると、ちょうど光の大蛇が階段をかけあがるようにしたのです。

それを見た人間に「大蛇が神様なのだ」と思わせ、オニの言うことを聞くようにさせたのです。

オニたちは人間に嫌なことばかりさせ、苦しめてゲームのように楽しんだのです。

それを見たイシカミさんたちは怒って、空の彗星にオニをこらしめてほしいと頼みました。

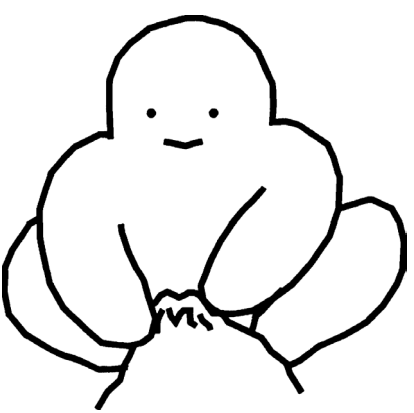
彗星は火の玉になって地球さんにつっこみました。

それで中央アメリカの一部は海に沈んで、へっこんでいるのですね。

北のアメリカに降りたイシカミさんたちは、連れてきた人間に星さんの助けでトウモロコシを与えました。

またピラミッドも作ろうと思いましたが、とても疲れて最後まで出来ませんでした。

その代わりに変わった形の岩を作り、ここに降りたと言うことの合図をしておきました。
また南米のイシカミさんから高い山を作ってもオニが来たと言うことを知らされました。
それで北米のイシカミさんは子供たちを作り、高い山の反対に深い谷のグランドキャニオンを作ったのです。
けれどもやはりオニが来て悲しい事になりました。



八【エジプト・ギリシャなどのイシカミさま】

エジプトのイシカミさんたちは、仲間のイシカミさんが亡くなったとき、その上に落とし物で「ピラミッド」を作りました。

落とし物でおにぎりをにぎるように四角い石を作り、それを積み上げていきました。

落とし物は柔らかく石と石の間がぴったりとくっついたので、とても頑丈なピラミッドができました。

ピラミッドを作っている時、小さな人間がその中を見たいと思っていることがわかりました。

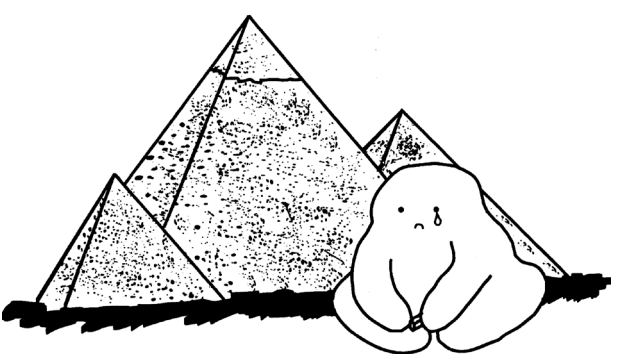
そこでピラミッドの中に空気と人間が入れるように、四角い木材を刺して通路を作りました。

お部屋は大きな木型をつくりその上に落とし物をのせて、乾いたら木型をはずしその中に

はイシカミさんの指輪を入れる物を作りました。
エジプトのイシカミさんたちは、星さんの助けで人間に小麦を与えてあげました。
エジプトには食べ物がたくさんあり長生きすることができたので、イシカミさんの子孫は世界で一番長く生きていました。
イシカミさんの王さまはとても大きかったので、大きな像や建物をたくさん作りました。
エジプトのイシカミさんたちも動きにくかったので、エジプトの像には歩こうとする形があるのですね。
また、フン転がし＝スカラベを大切にしたのは、フンを転がして歩く姿がイシカミさんに似ていたからです。
エジプトのシナイ山もイシカミさんの一人でした。
ギリシャ地方は以前恐竜たちのお墓だったのでたくさんの石灰がありました。
その石灰から骨と同じ栄養がとれたので、イシカミさんの子供の身体は骨がなくても生き

ることができました。
骨の無いイシカミさんの子供たちの身体は、とても軽くて歩かなくても移動できました。
身体の軽いギリシャのイシカミさんたちはお仕事もいっぱいでき、恐竜の骨の土を大西洋に運んで、大きなアトランティス大陸を作りました。
骨の土を取った所は海がつながり「地中海」になりました。
イシカミさんたちは未来を見る事が出来て、オニが地球さんを支配することがわかっていました。
それでイタリア半島を長靴の形に作り、小石につまずくような形にして島を作りそのことを表しました。
パルテノンの丘もギリシャに降りたイシカミさんの一人でした。
ギリシャのイシカミさんたちの子孫はアトランティス人と言いました。
彼らは自由に動けて思うことが実現でき、まるで天国のような生活をしていました。

必要な仕事はすべてアンドロイドがしていたからです。
アンドロイドはロボットですが、ほとんど人間と変わらないほどに良くできたものでした。
アンドロイドはどんどん増えてゆき、「レムノイア」（レムリア）という大きな島に国を作るまでになりました。
オニはアトランティスの暮らしを見てねたましく思い、アンドロイドに入りこみました。
そのためアンドロイドたちは反乱を起こし、アトランティスのエネルギーの元を爆破してしまいました。
アトランティスの島は沈没してしまい、レムノイアも吹っ飛ばされて南極に島が移動してしまいました。
古代に南極の地図が残っているのはそのためなのですね。



九【ノアの洪水】

イシカミさんが人間たちのために食べ物を与えたり、一生けんめい働いてくれたのに、地球に降りてきたオニはまたたくまに世界中を支配しました。

そして人間はもちろん、イシカミさんの子供までオニに支配され、世界中の人間はオニの神様の言うことだけを聞くようになりました。

オニの神様は「死んだら何もないから、今だけ楽しく過ごしなさい」と言いました。

それを信じて「今さえ良ければ良い、自分さえ良ければ良い」と言う考えの人ばかりが増え、みにくい争いの世界になってゆきました。

イシカミさんたちはとても優しかったので、連れてきた人間がそのようになっていくのがまんできなかったのです。

悲しくなった世界中のイシカミさんたちは一斉に泣き出したので、大雨が続き世界中が

大洪水になってしまいました。
それがノアの洪水で、ノアとは「何も無い」という意味なのです。
けれど、イシカミさんを信じていた正直な人たちは「船を造って食べ物も蓄えておきなさい」というイシカミさんの言葉が聞こえました。
その声に従った人たちはノアと呼ばれ助かり、そのうちの一組の親子が日本にたどり着きました。



十【ヤマタイコク】

未来が見えるイシカミさんは大陸中がオニに支配されることを知っていました。
それでオニが責めてこられないように海でかこまれた島を、地球さんに頼んで作ってもらっていました。
それが星の宮さんが眠っている日本でした。
イシカミさんの子孫であるアトランティス人と人間との間に生まれた「大国主」はイシカミさんとお話ができました。
大国主たちはその日本を目ざしてラクダに乗って出かけることにしました。
そして食べ物を食べても、水を飲んでも中身のへらない瓶を、イシカミさんから与えてもらいました。
とちゅうで「ヒミコ」というイシカミさんの声が聞こえる女の人もいっしょに、日本に行

くことになりました。

エベレストを作ったイシカミさんたちは、砂漠を渡っている大国主たちが日本へ行こうとしているのを知りました。

それで大国主たちが寝ている間に、そっと手のひらにのせて日本まで運んであげたので、簡単に日本に行くことが出来ました。

そして大国主たちは四国に落ちつき、そこのイシカミさんや星さんの助けでイネやひえの種を作ってもらったり、生きていくための知恵を教えてもらいました。

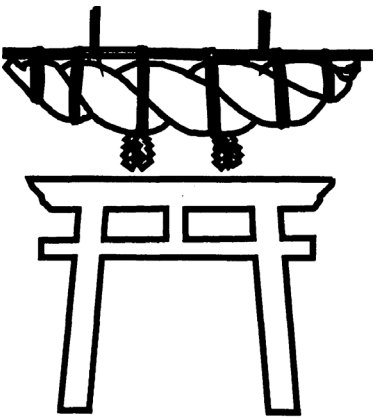
働き者の大国主たちは「ヤマタイコク＝山台国」という平和な国をつくり、みんなで仲良く暮らしていました。

けれどもヤマタイコクにもオニに入られた人たちがやって来て、大国主は出雲へ行かされ、ヒミコは自殺しました。

ちょうどその頃ノアの洪水で日本に流れ着いたユダヤ人の「ノアとその息子」がいました。

二人はイシカミさんに教えられ、星原の「星の宮さま」が降りた所に行きました。
そこにオニにヤマタイコクを追い出された「ヒミコの娘」も来ていて、出会った二人は好きになり一緒に住むことになりました。
山彦、海彦も生まれ幸せに暮らしていましたが、またオニに支配された人が襲ってきたのです。

そしてノアは追放され、「ノアの息子」は殺され、「ヒミコの娘」は行方不明になりました。
生き残った山彦は星原で、海彦は海辺で仲間の者に守られて、それぞれ大きくなりました。



十一【射手座の王子と王女】

射手座には王女二人と王子二人がいましたが、地球には遅れて降りてきました。

「王子・君山」

射手座の一番下の王子は未熟児で、「君山」（＝ジョウヤマ）さんといわれたイシカミさんでした。

とても小さかったのですが、ちゃんと「星の宮」のそばに降り、イシカミさんの子孫である「大国主」の孫（＝山彦）を見守りました。

親を亡くした山彦はイシカミの君山さんと、テレパシーでお話することができ、山彦が山で座ると椎茸や薬になる植物ができました。

山彦は大きくなるとお父さんに似た外人の姿になりました。

オニに支配された人は「父親の仇討ちをされたら困る」と思い、山彦を殺してしまいました。
君山さんはそれが悲しくてたまらなくて、山彦が殺された場所に奇跡を起こしました。
シガサトの七不思議と言われるもので、今も言い伝えが残っています。
一つ目は、藤の花を白い色にしました。
二つ目は、萩の花も白くして冬に咲かせました。
三つ目は、雨が降らないのに松からしずくが落ちました。
四つ目は、風が吹かないのに松が揺れました。
五つ目は、二月四日の冬にタケノコが出ました。
六つ目は、二月三日の冬にミョウガが出ました。
七つ目は、ご用怖と言って、お正月にならないと食べられない柿がありました。
追っ手が「ご用、ご用！」と言って山彦を捕まえに来たのを聞いて、怖くて成長が止まったそうです。

タケノコは皮も中身も人間が利用でき、大きくなったら山が崩れないように土留めをする働きがあります。

それに比べミョウガは皮をむいていったら中身は何もなく、食べ過ぎると記憶力が悪くなると言われています。（少しだけ食べるのであれば、心配はありません）

君山さんは山彦を殺した当時の権力者を、ミョウガにたとえて皮肉っぽく人間に知らせたのです。

また山彦が殺された事で赤い豆＝小豆を、これらの悲劇の物語が隠された事で黒豆を、君山さんは作って伝えておこうと思いました。

今もこの地方には「ヤソ（＝外人）、ヤソ」とかけ声をかける「ヒヤソ踊り」が残り、殺された「ノアの息子」の事を伝えています。

「王子・ムーノイア」

南の大陸ムーノイア（ムー大陸）に降りたイシカミさんも射手座の王子で、君山さんのお兄さんでしたがまだ子供でした。

「地球に降りたらお母さんに会えるよ」と言われ、地球さんへ降りてきました。

お腹に人間を入れてきましたが、出すのが早すぎたので焦げて色が黒くなり、髪の毛も縮れました。

でもすぐ生き返らせましたので、一緒に来た人間たちはとても元気でした。

イシカミさんは星さんの助けで人間にタロ芋やバナナを与えたり、薬になる植物を教えたりしました。

ムーノイアのイシカミさんは太陽さんと仲良しでしたので、植物もすぐ大きくなり食べ物は充分ありました。

子供のイシカミさんでしたが、星さんの助けでおもしろいお猿さんも人間の為に作ってくれました。

イシカミさんと人間は、オニが降りるまでは楽しく幸せにくらしていました。
射手座から来たことを人間がいつかは気がついてくれるようにと、射手座の形をした石のお金の様なものも作りました。
隣のイースター島で大きな石の像＝モアイ像を作ったのは「王子の乳母」でした。
「空から来たモノがつくりましたよ」という意味をこめて、落とし物でたくさんの像を作りました。
この平和だったムーノイアに、オニは「仲間に入れて」とやって来ました。
けれどもすぐにオニたちは大蛇となって人間を食べるようになったので、イシカミさんはたいへん怒りました。
それで地球さんに頼んで火山に噴火してもらったので、大陸のほとんどが沈んでしまい、残ったところが小さな島となりました。
イシカミさんは海に沈んだムーノイアのために、星さんの助けできれいなサンゴや熱帯魚

を作りました。

「王女・ニュージーランド」

ニュージーランドに降りたイシカミさんは、姉の王女でした。
王女はお母さんから射手座に残るように言われていましたが、誰もいなくなり部下の若者と供に降りてきました。
王女のイシカミさんはオニが人間たちを支配しているのを見て可哀そうに思っていたので、人間は連れてきませんでした。
けれども将来北の人間が自分のいる所に逃げて来ることはわかったので、人間のために冷たい風を防ぐ山を作ろうと思いました。
王女の部下はたくさん仕事が出来るように、落とし物で手足のたくさんあるロボットを作りました。

そのロボットたちは寒い風を防ぐために扇形の山や、ピラミッドの働きをするように高い山を三角の山や尖った山にしました。

とても大変な作業で、ロボットたちは疲れて自分たちの身体に土をかけるまもなく死んでしまい、短い足のあるタコのような丘になりました。

王女は「ムーノイアのオニの大蛇が攻めてきたらどうしよう?」と思っていました。

それで落とし物で大きなまん丸の物をつくり海岸に並べておいて、大蛇が来たらそれらを投げようと思っていました。

また大蛇はトゲが嫌いなので、トゲのある植物や形がトゲに見えるシダを作りました。そしてシダの新芽をはてな「?」と言う形にしました。

「?」はワラビやゼンマイの新芽の形で、なぜこの形になっているか人間が気づいてくれるようにと思って作ったのです。

大蛇は王女が作ったものを食べようと思っていることもわかりました。

それで王女は大蛇に「ここは鳥しか作っていませんよ。来ても皆飛んで逃げますよ」とテレパシーで知らせました。
それでこの島には鳥の形をしたものしかいなかったのです。
キーウイ(鳥)はおいしい木の実(キーウイ)がなっている所を知らせるために作りました。
カメさんの背中の模様はみにくい網をあらわしています。
オニたちに支配される地球さんを見て「網で捕まえられた可哀そうな地球さん」と思い、カメさんの背中にそれをあらわす網の模様を描いたのです。
そして「オニが意地悪するときは首を引っ込めていなさいね」と、あの形にしてくれたのです。
人間がいなくてさみしかったので、寒くても元気でかわいく、みんなで助け合いながら生きていくような動物を星さんの助けで作りました。
それがペンギンさんです。

王女は一部のペンギンさんにちょっと無理なお願いをして、自分のそばで赤ちゃんを産んで欲しいと頼んだのです。

けれども海辺で卵をかえすペンギンさんに比べ、山で卵をかえすのはとても大変なことがわかり、王女はペンギンさんに謝りました。

アシカはいつまでも赤ちゃんの様に、歩いて行ってしまわない動物がいると良いなと思って作りました。

たくさんの鍾乳洞はイシカミさんの部下が身体を溶かして作りました。

鍾乳洞の中にいる土ホタルは、お母さんから「星に似たモノを作りなさい」と言われたので星さんの助けで作りました。

真っ暗な洞窟の中で満天の星空のように光る土ホタルは「星のモノが作りましたよ」と言う事を知らせているのです。

「王女・オーストラリア」

妹の王女はオーストラリアに降りました。

この妹のイシカミさんも、ムーノイアの悲しい出来事を見ていました。

それでオーストラリアの最初の人間に「決してあのように戦ったり、人を傷つけたりしてはいけません」と教えました。

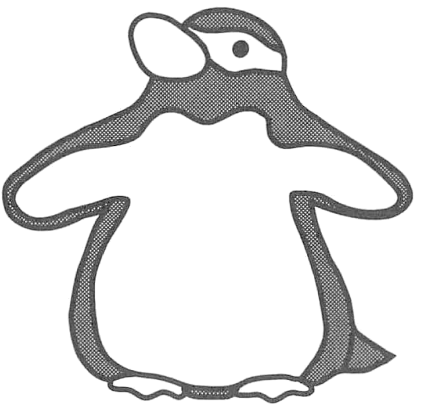
王女は人間に広い砂漠でもテレパシーで話ができるようにしたり、水を探す知恵をさずけました。

王女はイシカミさんたちがお腹に人間を入れてやってきたことが、わかる様な動物を作ろうと思いました。

最初に星さんの助けでカモノハシを作りましたが、水の中なので人間はあまり見つける事ができませんでした。

それで簡単に見れるようにお腹に子供を入れたカンガルーを作りました。

妹の王女は砂漠の中の大きな岩山（エアーズロック）になりました。
オーストラリアにもオニはやってきましたが、そこの人たちはエアーズロックを神さまとして大切にし続けました。



十二【星さんたちとイシカミさんからの贈り物】

空の星さんたちは人間のためにたくさんの動物を作りました。

ウサギさんの耳が長いのは、オニにいじめられた人間の悲しみを聞くためで、目が赤いのは、オニがしたひどいことを聞いて泣いているからです。

ゾウさんは地球をあらわしていて、長いお鼻は地球の引っぱる力〝引力〟をあらわしています。

大きな耳をばたばたするのは、地球のまわりを吹く偏西風をあらわしています。

白い牙は、ボートをこぐオールをあらわし、ボート（地球）をオール（牙）でこいで太陽の周りをまわるという意味です。

カバさんのあの大きな口は「地球の中」をあらわし、歯は岩ばんで、口の中は「溶岩がとけていて柔らかですよ」という意味です。

クジラさんは恐竜のようにけんかばかりしないで、仲良く暮らす動物として作られました。
頭の大きいクジラさんは深海にも潜ります。
海に沈んだ大陸（アトランティスやムーノイア）があることに気づいて欲しいので、潜ってもらっているのです。
キリンさんは地球と月の関係をあらわし、見えない通路が地球と月の間にあることを、キリンさんの長い首であらわしています。
見えない通路があるので海の満ち引きなどが月と関係しているのですね。
カニさんはイシカミさんをあらわし、お腹に人間を入れて来たことをカニさんのお腹に卵が見えることであらわしています。
そして恋しい射手座への思いをハサミでちょん切っているのです。
可哀想で涙が出るでしょう。
カニさんが横歩きをするのは「地球は三次元のままでいく＝このままの状態」ということ

をあらわしています。

またカニさんはその手で地球さんをきれいにしてくれています。

鹿やトナカイのオスの角は稲妻（星の宮さま）をあらわし「稲妻で地球のお掃除がなされた」ということをお知らせするための動物です。

それでトナカイさんはクリスマスの時期に良い役をもらっているのですね。

「宇宙の神さま」が初めに渦巻きを作ったので、アンモナイトやカタツムリの模様はそのことをあらわすために作りました。

反対にオニの星さんが作ったモノはヘビくんで、アンモナイトのカラを取って寝かせた形にしました。

これは「星の宮をやっつけた」という意味なのです。

カエルさんの卵から手足が出る事は人間も同じ事と知らせています。

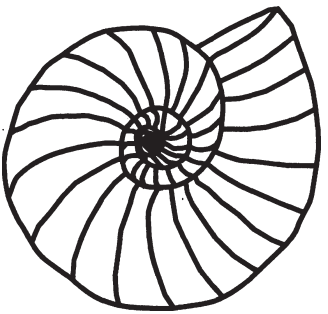
カエルさんは害虫を食べますから人間の役にも立っていますね。
さて、動物以外にもイシカミさんは人間のためにいろんな物を作ってくれました。
あらゆる食べ物は星さんの助けでイシカミさんが与えてくれたのです。
麦やお米はもちろん栗やミカン、カボチャやジャガイモ、トマトや玉ねぎなどイシカミさんの形に似てるでしょう。
星さんやイシカミさんは一生けんめい「思う」だけで作れるのです。
けれど自分たちのことを分かってくれる人間を作るのはとても大変で、星さんたちが皆で協力して作りました。
類人猿は人間を作る前のいうなれば「試作品」ですね。
最初の人間はテレパシーでお話するだけで、言葉はしゃべれなかったので、小さなロボットを作り「のど」を改良して言葉をしゃべれるようにしました。
この小さなロボット人間が世界中で知られている「小人さん」です。

他にも色とりどりの魚、面白い鳥、きれいなお花、不思議な動物が地球にはいっぱいいるでしょう。

これらは空の星さんたちがいろいろ考えて作っているのです。

お星さんたちは、こんな形、色、働きをするようにと強く「思う」だけで作れるのですね。

なんだか胸がわくわくするお話ですね。



十三【イシカミさまの合図】

イシカミさんはピラミッドの代りを作ろうと思い、あちこちで尖った山を作りました。また世界中にある変わった岩は、イシカミさんが「私たちが作りましたよ」と知らせるために作りました。

トルコのカッパドキアに帽子をかぶったような石があるのは「この石の下にも家がありますよ」という目印なのです。

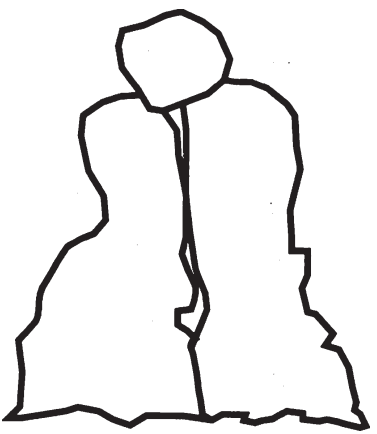
イギリスのストーン・ヘンジも「射手座からきたイシカミさんたちが人間を支えているのですよ」という意味で作られました。

大昔に作られたストーン・サークルは石を丸く並べて、イシカミさんがまん丸だったことをあらわしています。

大昔の人たちはそれをおがんで食べ物を与えてくれたイシカミさんに、お礼を言ったりお

願いをしたりしていたのです。

イシカミさんの身体はいろいろな山になり「山の神さま」の始まりとなりました。
これまで人間のために働いてくれた世界中のイシカミさんたちは「ここにいますよ！」とお知らせをして、人間たちが気づいてくれるのを待っているそうです。



【最後に】

このように星さんやイシカミさんは人間に食べ物を与えてくれたり、動物を作り出してくれました。

けれどもやんちゃなオニの星さんが地球に降りてきてからは、人間たちはイシカミさんたちのことをどんどん忘れてゆきました。

なぜならオニに支配された人がイシカミさんの話をすることを禁じ、信じている人をいじめたからです。

けれどもとても強い力を持っていたオニの星さんは、遊びつかれて宇宙の神さまの中に入り、合体したので今はいないそうです。

それで地球を遠くから見守ってくれていたやさしい星さんたちと、こうしてお話が出来るようになったのです。

これからは人間の力で世界を平和にしていきましょう。
一生けんめい皆が「平和な地球になりますように」と思うことでその通りになるようです。
そして星さんやイシカミさんがいつも見守ってくれていることに気がつくと、よりたくさん応援してくれるそうです。
「星さん、イシカミさん、ありがとう」と思うだけで通じるそうですよ。
「みんなが楽し人間生活が出来るように応援してくださいね。」とも頼んでみましょう。

「これで星さんが教えてくれたふしぎな物語はお終いです」

【付録】

【付録1】

【なぞなぞ】

お星さんの答えです。（学校で教わることとは違っています）

Q1）木はなぜ空に向かって伸びていくか？

木は木星さんが地球さんにプレゼントしたモノだから、お空に帰りたいのです。

Q2）大木の上までなぜ水は登っていくのか？

水は水星さんが地球さんにプレゼントしたモノだから、お空に帰りたいのです。

Q3）なぜ石油は燃えるのか？

石油は恐竜時代の植物が一気に稲妻で燃やされてそのまま眠っていた物です。

それが急に起こされ火をつけられると、また燃えなければならないと思うからです。

Q4）人間の指はなぜ五本か？

手足四本と男性についているもの一本で「五」（＝肉体）と言う数にしたのです。

Q５）百合の花びらはなぜ六枚か？

花は星さんたちが作りました。

人間の肉体をあらわす「五」にさらに「意識」があって、星さんたちとつながっていることをあらわしているのです。

Q６）ハナミズキの花はどうして上を向いて咲いているのか？

イシカミさんが地球に降りてくる時にお迎えしたお花で、花びらはイシカミさんの形をしています。

Q７）桜はなぜ下を向いて咲いているのか？

「山彦」が桜の下で眠っているからです。

Q８）ウナギの赤ちゃんはどうして平べったいか？

ウナギは卵から生まれるのではなく、体内で受精した赤ちゃんがお母さんの丸い身体から

出る時、こんにゃくのように押し出されるからです。（胎生）

Q９）セミはなぜ長いこと地下で生活するのか？

真実（イシカミさんの物語）がかくされていること、その事を話す（ジージーと鳴く）といじめられ長生きできなかったからです。

Q10）カレイはなぜ砂にもぐるのか？

真実をかくすこと（砂にもぐる）で生き延びた「海彦」をあらわしています。

ヒラメはそのカレイを見張っているので、目の位置が違うのです。

Q11）アリは何をあらわしているのか？

星さんたちから見ると、人間はアリのようにみえるということ。アリの足が六本なのは、星さんたちの指示に従って行動しているからです。

Q12）紫色はどうして高貴な色といわれるのか？

紫色のスミレが祈る姿だからです。

Q13）なぜ頭の毛をカミノケと呼ぶのか？

頭の上＝空に星がある事に気づいて欲しいので、たくさんの髪の毛を生やしたのです。

星も同じように空にたくさんあるでしょう。

Q14）鳥居としめなわは何をあらわしているのか？

大国主がヒミコをしのんで作りました。

たばねた髪の毛とクシなのです。

Q15）菊やコスモスの花は何をあらわしているのか？

菊の花は最初にあらわれた光の形をあらわし、コスモスなどは太陽からたくさんのエネルギーが出ていることをあらわしています。

また、あじさいなど小さな花がたくさん集まった形は、宇宙はたくさんの星からできていることをあらわしています。

【付録2】

お星さんは歌も教えてくれました。

「星からのメッセージ

一）星はさみしく　思ってる
　あなた一人じゃ　ないのです
　お空にいるよと　呼んでます
　星のまたたき　意味あるの
　あなた好きよと　またたくの

二）星は何でも　知っている
　私のお絵かき　いかがです

私の願いを　描きました
星のまたたき　昼もある
お空を見上げて　ごらんなさい

三）星の数ほど　ありました
それらはみんな　学びです
いつか必ず　この地球
笑顔に満ちた　星になる
私遠くで　見ています

「私のお絵かき」とはミステリーサークルのことで、見えないガラスのようなモノに絵を描いて、一気に押し付けるそうです。
大地に描かれた不思議な模様の説明は本「星からのメッセージ」に書いてあります。

【付録3】

ちょっと難しいですが、星さんが書いて欲しいと言ったことでもあり、この事は大切だと思いますのでおつき合いください。

「物質を小さく小さくしていくと、最後は原子なります。

原子は原子核と電子で出来ています。

そして電子は原子核の回りをものすごいスピードで回っています。

それは原子核が電子に『私の回りを回って、と頼まれたことを知らせてね』とお願いしているので、電子は回ってくれているのです。

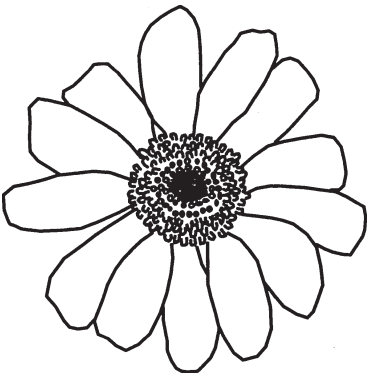
この事で原子に［思い］があることが解り、［全ての物］は原子から成り立っているので［全ての物に思い］があることがわかりますね。

宇宙には思いを持った原子がいっぱい満ちあふれています。
それで、何かを作ろうと星さんたちが原子に号令をかけると、原子たちが集まってくれるそうです。
そして先頭の原子に「この様になって」と言うと他の原子に伝えてくれて、お花や動物が出来るそうです。
人間では同じ様にはまだ出来ませんが、一生けんめい思うと原子たちに通じるのです。
それで自分の身体も原子から出来ているので、『毎日働いてくれてありがとう』と感謝してくださいね。
そうすると身体もがんばらなくっちゃと思いますよ。
また食事を頂く時には食べ物に感謝してくださいね。
食べ物たちは感謝して食べてもらえるとうれしいそうです。
そうすると、食物の原子たちは、あなたの身体の細胞になって元気に働いてくれるそうで

す。

動物はもちろん、木や草花、水、石油、石、山、星さんも原子から出来ているので、お星さんや山も［思い］を伝える事ができたのですね。

最後に一番大切な事は、けんび鏡でも、ぼうえん鏡でも見えない世界がある事です」と教えてくれました。お終い。



著者略歴

シラキ　カヨコ

京都府出身。兵庫県在住。

イトウ　キミ

熊本県出身。アメリカ在住。

共著。

イラスト・ミズホ

参考文献

「星からのメッセージ」

文　芸　社

「星からのメッセージ第２集」

豊田出版社

「星からのメッセージ 第３集」

電子本、ＴＵＢＯＢＯＯＫ

ホシ物語

2016 年 3 月 31 日　第一版発行

発行者　ソラ星出版株式会社

販　売　ソラ星出版株式会社

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://book.ishikami.jp

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、

法律で定められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。

©TAEKO SHIRAKI 2016 Japan